平成 27 年度　福井大学地域貢献事業支援金

まちなかの地域資源活用による魅力発信とネットワーク構築

事業責任者：原田陽子（工学研究科・准教授）
代表学生　：安岡朋香（工学研究科・博士前期課程 2 年）

概　　要	
本事業では、福井市中心市街地に位置する新栄地区を対象に、暫定的・実験的に駐車場などの低未利用地を屋外公共空間とすることで、まちなかの回遊性向上や賑わい創出を検証し、新栄地区の低未利用地活用に関する今後の展開可能性を考察することを目的とする。 H26 年度からの改善点として、①事業期間の見直し、②空間面の充実、③地元との連携強化、④イベント・出店料徴収による事業の収益性、⑤広報の強化に取り組んだ。 今年度の事業の結果、来場者は昨年度に比べ約 4 倍増加し、来場者、出店者、地元店主ともに好評を得た。課題となっていた駐車場の賃料については、福井市と駐車場の管理会社の土地の使用権交換により、3 年間発生せずに済むことになり、また運営主体として、地元の新栄商店街振興組合が手を挙げた。 以上より、H28 年 4 月から地元主体で 3 年間、事業を継続することになった。	
関連キーワード	中心市街地、低未利用地、駐車場活用広場、回遊性向上、賑わい創出

事業の背景および目的

福井市中心市街地では、空き店舗や青空駐車場が虫食い状に増加し、また近年、中心市街地の商店数や歩行者通行量が減少を続けるなどの状況に陥っている。こうした中で、福井市中央一丁目の新栄商店街周辺地区（以下、新栄地区）は、JR福井駅西口に近く中心市街地の商業の中心部に位置する立地でありながら、老朽化した木造建築物が4m未満の路地に面して密集し、福井市中心市街地の中でも際立って空き店舗の数が多い状況となっており、今後、何らかの改善や更新が必要であると考えられる地区である。

そこで本事業では、福井市中心市街地に位置する新栄地区を対象に、暫定的・実験的に駐車場などの低未利用地を屋外公共空間とすることで、新栄地区に人を呼び込むことができるかを検証し、新栄地区の低未利用地活用に関する今後の展開可能性を考察することを目的とする。

事業の内容および成果

《事業の内容》

H27 年度は、10 月 2 日～11 月 1 日までの約 1 ヶ月間、駐車場活用広場「新栄テラス」を実施し、具体的には以下の内容について取り組んだ。

①新栄商店街などまちなかの魅力づくり（屋外広場のサポート、空間デザインやまちなみづくり検討、緑化、魅力づくりのためのワークショップやイベントの企画・実施。）

②新栄商店街などまちなかの魅力発信（ホームページやFacebook、チラシやポスターにより、新栄テラスでの活動を含め、新栄商店街などまちなかの魅力発信を実施。）

③上記活動を通した人的ネットワークづくり（様々な情報発信メディアやイベントを通して、地元店主どうしや、まちなかに興味のある若い世代、まちなかの魅力づくりに協力してもらえるようなクリエイターや専門家などを繋ぐ人的ネットワークづくりを実施。）

《事業の成果》

H27 年当初は、福井大学が中心となって、地元有志の協力を得ながら、秋の 1 ヶ月間、新栄テラスを実施する計画でいたが、6 月に福井市から、事業費面で課題であった駐車場の賃料について、福井市と駐車場の管理会社の土地の使用権交換により、3 年間発生せずに済む方法が提案され、地元と協議を行った。

しかし昨年度の新栄テラス実施以降に新しく新栄地区で店舗を開いた店主などから、駐車場が無くなることや地元による事業の運営主体などについて、不安の意見が出され、協議の結果、H27 年度は、地元有志の協力を得ながら福井大学と福井市が中心となって、秋の 1 ヶ月間事業を実施し、その結果を見て H28 年度に事業を継続するかどうか、再度、地元で話し合うことになった。

今年度の事業の結果、来場者は昨年度に比べ約 4 倍の 5437 人となり、来場者、出店者、地元店主ともに好評を得た。また新栄テラスとの因果関係は言えないものの、新栄地区内の空き店舗率は、事業実施前の 40.6%(H26 年 7 月時点)から、実施後には 30.5%（H27 年 12 月）に減少。

課題となっていた駐車場が無くなることについては、来場者の多くが駐車場よりも広場を望んでいることが明らかとなり、また運営主体として、地元の新栄商店街振興組合が手を挙げた。

以上より、H28 年 4 月から地元主体で 3 年間、事業を継続することになった。

事業名称: まちなかの地域資源活用による魅力発信とネットワーク構築

事業責任者： 原田陽子（工学研究科・准教授）　代表学生： 安岡朋香（工学研究科・博士前期課程2年）

キーワード:中心市街地、低未利用地、駐車場活用広場、回遊性向上、賑わい創出

事業の背景および目的:

福井市中心市街地では、近年、空き店舗や駐車場が虫食い状に増加している。こうした中で、2013年度から建築建設工学科 原田研究室では、福井市との共同研究の一環として、福井市中心市街地に位置する新栄商店街周辺地区を対象に、地元地権者やまちづくり関係者へのヒアリングを行うと共に、2014年度からは、調査結果を活かして、地区内のコインパーキングを活用した仮設の屋外広場や空き店舗を活用した交流サロンの実証実験を実施した。

この結果、来場者から、特に今後も継続して屋外広場を続けることを希望する声が多く、また地元店主からは、学生が新栄地区に常駐したことによって、まちなかに賑わいが生まれたという意見も多く見られた。

こうした中で本事業では、新栄地区を対象に、学生が地元のNPOや店主等と協力しながら、以下の3点について取り組み、駐車場などの低未利用地や、店主などの人的資源を活用し、まちなかの地域資源活用による魅力発信とネットワーク構築に取り組むことを目的とする。

事業の内容:

H27年度は、10月2日～11月1日までの約1ヶ月間、駐車場活用広場「新栄テラス」を実施し、具体的には以下の内容について取り組んだ。

①新栄商店街などまちなかの魅力づくり（屋外広場のサポート、空間デザインやまちなみづくり検討、緑化、魅力づくりのためのワークショップやイベントの企画・実施。）

②新栄商店街などまちなかの魅力発信（ホームページやFacebook、チラシやポスターにより、新栄テラスでの活動を含め、新栄商店街などまちなかの魅力発信を実施。）

③上記活動を通した人的ネットワークづくり（様々な情報発信メディアやイベントを通して、地元店主どうしや、まちなかに興味のある若い世代、まちなかの魅力づくりに協力してもらえるようなクリエイターや専門家などを繋ぐ人的ネットワークづくりを実施。）

事業の成果:

今年度の事業の結果、来場者は昨年度に比べ約4倍の5437人となり、来場者、出店者、地元店主ともに好評を得た。また新栄テラスとの因果関係は言えないものの、新栄地区内の空き店舗率は、事業実施前の40.6%(H26年7月時点)から実施後には30.5%（H27年12月）に減少。課題となっていた駐車場が無くなることについては、来場者の多くが駐車場よりも広場を望んでいることが明らかとなり、また運営主体として地元の新栄商店街振興組合が手を挙げた。以上より、H28年4月から地元主体で3年間、事業を継続することになった。